

9月9日は救急の日

毎年、9月9日を「救急の日」とし、この日を含む一週間を「救急医療週間」と定め（今年9月7日から9月13日までの一週間）、救急業務の普及啓発運動が全国的に実施されます。これは救急医療及び救急業務に関する国民の正しい理解と認識を深めるとともに、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的として設けられているものです。皆さんもこれを機会に救急業務に対しての知識を深めてください。

応急手当とは？

突然、ケガや急病の方が発生したとき、近くに居合わせた方が行う手当てです。応急手当を正しく速やかに行うことができれば、救命率は向上し、ケガや病気の後の経過にも良い影響を与えることが医学的にみても明らかになっています。

応急手当の目的

1 救命

応急手当の一番の目的は、傷病者の命を救うこと（救命）にあります。したがって、傷病者の応急手当を行うときは、その症状に応じた手当を優先して行います。

2 悪化防止

応急手当はケガや病気を治すために行うのではなく、現状より症状を悪化させないことを目的に行います。

3 苦痛の軽減

傷病者は、心身ともにダメージを受けていることから、必要な手当てを行うとともに、励ましの言葉を掛けるようにします。

応急手当の重要性

なぜ、応急手当が重要なのでしょうか。急いで救急車を呼んだ方がいいのでは？ここで、フランスの大学教授であるM・カーラーの救命曲線を

ご紹介しましょう。（図1）

これは、ケガ人や急病人における時間的要素の重要性を指摘しているものであり、心停止、呼吸停止、多量出血の順に、放置した場合の死亡率が増加することを意味しています。

ここで先ほどの救急車を早く呼んだ方がいいのでは？というところに戻りましょう。確かに、一刻も早く救急車を呼ぶことが重要です。しかし、

救急車を呼んでから現場に到着するまでには、全国平均で約6分、松前町では約5分かかります。これをカーラーの救命曲線にあてはめると、心停止の場合、約3分で救命できる可能性は約50%程度まで低下します。救急車が到着するまでの5分間が、傷病者の生命を大きく左右することが分かります。

救命の連鎖

早い通報、応急手当をはじめとして、救急救命士による除細動（電気ショック）、救命救急センターなどによる高度救命処置が途切れることなく、スムーズに行われることが、救命率の向上には欠かせません。これを「救命の連鎖」と

いいます。（図2）

大切な人が突然のケガや病気におそわれたとき、あなたは救急車の到着まで何の手当もせず見ているだけですか？我々消防職員も「助かる命を助けたい」という一念で日々努力を重ねていますが、救急車が現場に到着するまでの空白の5分間を埋められるのは、その場に居合わせた「あなた」なのです。

傷病者が発生した時、誰かがすぐに応急手当を行うような社会にすることが必要です。そのためには、まず、「あなた」が応急手当の正しい知識と技術を覚えて実行することが大切です。他人を助ける尊い心が応急手当の原点といえます。

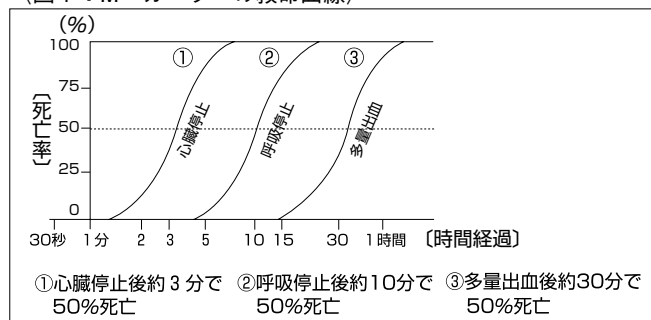
今年も松前消防署では、普通救命講習会や応急手当講習会を行い、大勢の方々が受講されています。また、松前消防署では、いつでも普通救命講習や応急手当講習を受け付けています。少人数からでもお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ

松前消防署救急係

☎ 984-3404

〈図1：M・カーラーの救命曲線〉



〈図2：救命の連鎖〉

